

令和8年度 一ノ宮小学校 校内研修計画

1 研究主題及び教科

研究主題	「対話によって学びが深まる授業づくり」 ～算数科「聴き合いたくなる課題」を通して～
教科・領域	算数科

2 主題設定の理由

本校の児童は、自分の考えを分かりやすく伝えたり、友だちの考えと比べて聴いたりするなど、学びが深まるような話し合いを「聴き合う活動」とし、授業の中で聴き合うことを大切に取り組んできた。しかし、自分の意見だけを押し通そうとしたり、相手の話を積極的に聴こうとしなかったりする姿がまだよく見られる。自分たちで課題を見つけたり、課題解決に向けて粘り強く取り組んだりする力も弱いのが現状である。

そこで、今年度も引き続き対話（聴き合う活動）によって学びが深まる授業づくりを行うことで、疑問について自由に質問したり、一人ひとりが考えを伝えたりしながら、互いに考えを交流し合い、主体的に理解しようという意識が高まると考え、本主題を設定した。

3 研究内容及び方法（具体的な手立てまで詳しく書いてください）

- ① 「聴き合い」を大切にした授業づくり（ペア学習やグループ学習の充実）
→「分かなさは宝物」を合言葉に、探索的会話を使いながら、みんなで学びを深めていく。教え合いにならないようにする。
- ② 「聴き合いたくなる」課題を取り入れた算数科の授業づくり
→多様な考え方が出る課題を意図的に創り、子どもが相手の考えを聴きたくなるようにする。（例：選択型にする。決まり発見の課題にする。□で隠した課題にする）
- ③ 算数科における「見方・考え方」を捉えた授業づくり
→正解を重視するのではなく、「解決までのプロセス」を重視した授業にする。子どもがどんな「見方・考え方」を働かせているのかを視覚的に分かりやすくするために学校図書の算数教科書に登場する「考え方モンスター」を黒板に掲示する。
- ④ 「遠回り運動」の推奨による教員同士の学び合い
→普段から各教員が校内を少し遠回りしながらお互いの授業や教室掲示を見て回り、放課後に授業について会話する風土をつくることで教員同士の学びを深める。

①「聴き合い」を大切にした授業づくりについて

「聴き合う」とは

一ノ宮小が考える「聴き合う」とは、子ども同士や教師と子どもが互いの考えを傾聴し、学び合う関係を築くことである。「ねえ、ここどうするの？」などの子どもの「分からなさ」から出発することにより、全ての子どもに互恵的関係が成立する。

「聴き合い」を生むための3つのポイント

1. 子どもたちが、互いの考えや思いを聴き合いたくなるような問いを考える。
2. 聴き合う場づくり（机の配置をコの字にする。ペアや3，4人グループにする。）を行う。
3. 友だちの考えを「聴き合う」ことの良さを実感させる。（言葉がけ）
 - ・低学年は、ペア
 - ・教師の言葉かけも、「話し合いましょう」ではなく、「聴き合いましょう」
 - ・聴き合うときの机上整理
 - ・反応を強要しない 言葉に出さない反応も大切に
 - ・まずはペア・グループで言いやすいような関係をつくるのが大事

どのような時に聴き合うか

授業の中でともに学ぶ展開を作り出すために、ペアやグループで聴き合う時間を意図的に設けていく。そのためにも、「友だちと一緒に考えたい。」「友だちの考えを知りたい。」という思いを持つことができる場で使っていく。

☆子どもたちの中に迷いが生じた時

☆新しい気づきが出た時

☆考えを広げたい（深めたい）時 など

②「聴き合いたくなる」課題を取り入れた算数科の授業づくり

なぜ「聴き合いたくなる課題」が必要なのか

本校では、対話（聴き合い）によって学びが深まる授業づくりに取り組んできた。子どもが「友だちの考えや思いを聴きたい（知りたい）」「自分の考えを表現したい」と考えた場面で、ペアやグループによる聴き合う活動を取り入れることで、全ての子どもたちの学びを保障していくことにつながることを実感できた。昨年度から算数科に重点を置いて取り組んでいる。「聴き合いたくなる課題」を取り入れることで、ペアやグループ内で疑問を自由に質問したり、一人一人が考えを伝えたりしながら、互いに考えを交流し合い、主体的に理解しようという意識が高まると考えた。

一ノ宮小が考える「聴き合いたくなる課題」とは

聴き合いたくなる課題とは、教科書レベルの理解を基礎として挑戦するそれ以上のレベルの課題である。言い換えれば、解けそうで簡単には解けない課題、一人で考えたり調べたりしても分からない課題、仲間と聴き合うことによってしか解決できない課題である。そのような課題に取り組むことで、対話的な学びが生まれ、多様な考え方に出会い、友だちと助け

合ったり、協働の学びの良さを味わったりすることができる。その中で、本時のねらいに到達していく。

＜聴き合いたくなる課題の例（昨年度の実践より）＞

4年生「直方体と立方体」

Q：「立方体の展開図は何種類あるでしょう。実際に展開図を組み立てて考えよう。」

③ 算数科における「見方・考え方」を捉えた授業づくり

◎「見方・考え方」とは何か

算数科における「見方・考え方」は、学習者が問題を解決する際に働かせる数学的なレンズのことである。

- 数学的な見方： 事象を数量や図形、およびそれらの関係に着目して捉えること。

（例：バラバラのリンゴを見て「赤いな」ではなく「5個あるな」「2列に並んでいるな」と捉える）

- 数学的な考え方： 根拠を基に論理的に考えたり、前の学習を活かして多面的に考えたりすること。

（例：比較、分類、関連付け、一般化、類推など）

簡単に言うと、「見方」は着眼点、「考え方」は思考のプロセスのことである。

◎なぜ「見方・考え方」が重要なのか

単に計算ができる、公式を知っているという「知識・技能」だけでは、変化の激しい社会では通用しにくくなっている。「見方・考え方」を育てる目的は、主に以下の3点が考えられる。

① 未知の問題を解決する「活用力」がつく

算数の問題は無限にあります、解法の根底にある「数学的な考え方」は共通している。

- 知識の習得だけ： 類題は解けるが、少しひねられると手が出ない。
- 見方・考え方の習得： 「これはあの時の『分けて考える』が使えるそうだと、既習事項を新しい場面に活用できるようになる。

② 「学びの自立」と自ら「問い」を生み出す力がつく

「見方」が身につくと、子どもたちが自ら課題を発見できるようになる。

- 提示された問題を解くだけでなく「もしここが小数になったらどうなるかな？」「条件を変えても成り立つかな？」といった数学的な「問い」を自分で生み出す力に繋がる。

③ 汎用的な「生きる力」としての論理的思考力がつく

算数で磨かれた「根拠を基に筋道立てて考える（論理的思考）」や「多面的に捉える」姿勢は、算数の時間だけでなく、日常生活のトラブル解決や、他教科での探究学習にもそのまま直結する。

☆「見方・考え方」は、子どもたちが算数の授業を終えて、大人になったときに最後に残る「物事の捉え方・考え方の習慣」である。公式を忘れても、この「習慣」さえあれば、それが一生使える大切な学びとなる。

☆このような、「見方・考え方」を意識した授業づくりを通して、「人にはいろんな考え方があること」「自分とは違う考え方に出会う面白さ」「人の考えを否定せずに、受け入れることの大切さ」といった視点を算数の授業の中で子どもに実感させることができる。これは、本校で大切にしているぬくたい関係づくりにも繋がれると考える。

◎ 授業で意識するポイント

① 導入：事象を数学的な目にさらす

問題提示の際、いきなり「式を立てましょう」とするのではなく、「何に注目すれば解けそうかな？」と問いかける。

- ・ 働きかけの例：「形に注目してみて」「昨日習った図形と似ているところはある？」

② 展開：既習事項との「関連付け」を促す

新しい課題に直面したとき、「類推（似た場面を思い出す）」や「帰納（いくつか試してきまりを見つける）」といった考え方を引き出す。

- ・ 働きかけの例：「整数の計算のときと似ているところはない？」

「0.1の何個分で考えられないかな？」

③ 終末：思考を「価値化」する振り返り

「答えが合っていた」だけで終わらず、「どんな考え方を使ったから解けたのか」を言語化させる。→本事のまとめにつながる。

- ・ 働きかけの例：「今日の問題を解くときに大切な考え方は何だったかな？」「この考え方は、他の問題でも使えそう？」

◎板書・ノート指導への活用

「見方・考え方」を可視化するために...

- ・ キーワードの提示→よく使う考え方を掲示する。（考え方モンスター）
- ・ 2つ以上の友だちの考え方を並べ、「どこが同じで、どこが違うか」を比較検討させる。
- ・ 振り返りでは、「～ように考えたら解ける。」など、その授業で使った「見方・考え方」を記述させる。

☆「この問題、前の学習と似ているところはどこかな？」と発問してみる。

これだけで、子どもたちは「関連付け」という数学的な考え方を働かせ始める。知識を教え込むのではなく、子どもたちが持っている「レンズ」を磨くサポートをしていきましょう。

4 年間研修計画

一 学 期	4月中旬 校内全体研修会（本年度の研究の方向性について） 5月22日 ミニ研修会（算数モンスターの活用法について） 5月28日 教科部長による提案授業 7月 2日校内全体研修会（3年生算数科）→事後研修会 8月 夏季研修会（ICTの活用について・みえスタ学調の分析）
二 学 期	10月上旬 ミニ研修会（ICTの活用について） 11月下旬 ミニ研修会（算数「聴き合いたくなる課題」について） 11月10日 校内全体研修会（1年生算数科）
三 学 期	1月上旬 ミニ研修会（算数科の対話について） 1月28日 校内全体研修会（5年生算数科） 2月下旬 校内全体研修会（校内研修の振り返り）